

平成30年度 第2回図書館協議会

- 1 日時 平成31年2月20日(水)10:00~12:00
- 2 場所 飯田市立上郷図書館2階視聴覚室
- 3 出席者(委員) 今村委員、竹内委員、中村委員、福澤委員、林委員、神原委員、西森委員、
久保田委員、塩澤委員
(事務局) 櫻井図書館長、瀧本館長補佐、矢澤上郷図書館長、関口鼎図書館長、
中平ビジネス支援係長
(司会) 中平ビジネス支援係長
- 4 櫻井図書館長 挨拶
- 5 会長 挨拶
- 6 報告事項
 - (1) 平成30年度事業報告
 - (2) 平成31年度図書館協議会委員選任について
 - (3) その他(意見交換)
- 7 事務局からの事務連絡
 - ・中央図書館 行事予定(地名講座、新聞活用講座、各館展示内容)

8 会議内容

(1) 平成30年度事業報告

○事務局 (資料「平成30年度 図書館事業報告」により説明)

資料1 ページ

- ・報告資料は、図書館サービス計画の3つの取組(「全域サービス」、「資料提供」及び「読書活動推進」)に沿って記載されている。
- ・全域サービスでは、市内全域でだれもが利用しやすい図書館を目指している。
ネットワークでは、中央館、地域館2館、分館16館を通じて、市内どこでも利用できる体制を整備している。
- ・各分館では、一人ひとりの要望に沿った係員の取組により、本の予約件数は大幅に増えている。昨年同時期に比べて600件ほど増加した。
- ・分館係員と分館主事が、それぞれの地域の特徴などについて話し合う機会を設けた。その内容を受けた分館案内の作成に取り組んでいる。
- ・図書分館の活動について、「週刊いいだ5月10日号」にて特集を組んでもらい、広報やPRを行った。

- ・利用者を増やすサービスについては、これまで図書館を利用したことのない市民にも広く図書館を知ってもらうため、広報いいだ6月1日号で図書館特集を掲載し、テレビ広報の放映を行った。活字だけでなく、漫画を用いて親しみをもってご覧いただくことが

できた。長野県市町村広報コンクールでは上位2位となる優秀賞を受賞している。利用者からもこのことについて声を掛けられることも多く、また、絶版になった本が図書館にあることを知って初めて図書館を訪れた方が現れるなどの効果があった。

- ・図書館を利用しにくい方へのサービスとして、高齢者に対するサービス検討のため、宅配サービスや代理来館のサービスについて事例を収集した。録音図書の利用者案内パンフレットを更新し、市役所福祉課での配布を開始した。
- ・多文化サービスについては特に中国語のリクエストが多く、要望に応える形で購入した。

(資料提供について)

資料2～5ページにより説明

- ・資料収集においては、出版物が多種多様化する中、市民からのリクエストや各館の蔵書バランスを踏まえ選書、購入した。特にAI、LGBT、子供向けプログラミング、地域づくりなどのキーワードに留意して選書を行った。福祉や医学の分野では、利用者の需要が特定の病気など、細分化・専門化された資料を望む傾向があることから、ニーズに応じた選書を行っている。
- ・書庫が狭隘になりつつあることから、中央図書館と上郷図書館で資料の分担保存を行うための取り決めを行った。新聞は、郷土新聞などのデジタル化を進めている。
- ・資料提供、情報提供状況について1月末時点の利用状況を説明。
- ・平成29年度はコンピューターシステム更新のため開館日が少なく、このため平成30年度は開館日が前年比104.6%になっていることから、開館日数の増加が利用者増の要因となっている。貸出利用者数の前年度比率は106.9%。
- ・年齢層の分析では、高齢者の利用増はここ数年の傾向であるが、高校生の減少が目立っている。
- ・団体貸出は、学校と連携を図ってきたことにより増加傾向にある。
- ・他地域からの資料借受が増加しており、ニーズの多様化・専門化に対応した結果と捉えている。
- ・各館でテーマ本展示や特別資料展などを開催した。

(課題解決支援)

- ・速やかに求める情報にたどり着き、課題解決に役立てるため、ホームページに地域情報、レファレンス事例を掲載した。
- ・市役所関係部署、市内団体との連携した行事を実施した。連携先を手探りで探すのではなく、異なる形で連携先と接点をもつことが課題。

(読書推進活動)

資料5～6ページにより説明

- ・次世代育成のための読書推進活動では、図書館に来ない子どもたちへのアプローチが課題。当面は保育所や学校などと連携する必要性を踏まえ、連携して推進する方法を探っている。本年度は保育園園長会や学校司書との協議のほか、1中学校区においてモデル的に小・中学校、図書館、図書館分館が集まり意見交換の機会を設けた。
- ・各年齢に即した読書活動推進が必要と考えるが、特に高校生へのアプローチが重要と考えている。高校生とは、保育の授業の一環で図書館とのかかわりが増えている。
- ・大人に対しては、読書会交流会を通じて読書の意義などを確認しあうことができた。市民との共同による講座の開催や、郷土資料を活用する講座など実施した。10代後半から30代への関わりが課題であるが、SNSを通じたアプローチを続けていきたい。

(2) 平成31年度 図書館協議会委員選任について

事務局 本年3月31日で現在の委員の任期が満了となるため、次期委員の選出方法について説明。

(3) その他 (意見交換)

- 委員A 児童書は、子どもに読ませたい良書でも絶版になり書店に並ばないケースが増えている。図書館においては、安易に除籍することなく、十分に注意して行われたい。
- 委員B 児童書は、初めて読書に関わるものとして重要に感じるので、今の意見に同感である。図書館の外で連携して取り組むことは継続されたい。
- 委員C 読書会交流会開催の意義は大きかった。引き続き、大人の学びの機会として継続されたい。
- 委員D 書庫の見学ツアーなど取組があるが、書庫にある本が表に出てこないことを勿体なく思う。中央図書館、鼎図書館、上郷図書館のそれぞれの館がもつカラーの違いを知ってもらう工夫も必要ではないか。
- 委員E 図書館分館運営にあたり分館長と分館主事が連携し、地域住民の拠り所として機能する必要がある。次世代育成のための知育力向上が目標に掲げられる中、高校生から30代が地域に関わるのが課題となっているのは図書館利用と重なる。この年代に向けた利用促進が課題と感じる。
- 委員F 低学年から高学年に向かい、読書時間の確保策をどう考えていくかが課題と感じる。子どもは宿題で音読などが出されるが、家庭において読み聞かせなど読書への関わりも必要と感じる。スマートフォン利用の低年齢化が進んでいるが、家庭におけるコミュニケーション手段として読書を活用する必要性を感じる。

- 委員G 中学校での朝読書の時間が、読書時間の確保や図書館への親しみやすさにつながっている。読書に馴染んでいる子どもは継続して読書できるが、そうでない子どもは大きくなってから本に親しむ機会を提供するのには限界がある。学校図書館には子どもたちが触ることのできるパソコンは設置されていないので、蔵書を検索する環境は弱い。子どもにとって、家庭に身近に本がある環境づくりに分館が役立つといいが、仕事をしながら子育てしている人たちが、どのタイミングでどれだけ分館を活用できるか難しい。
- 委員H 市民サービスのひとつとして「声の本」の提供があるが、飯田図書館が製作するものは県内利用者からの評判が高い。「声の本」があることを知らない市民が多いのでPRされたい。
- 委員D 今の時代ではSNSは生活から切り離すことはできないので、SNSを活用して高校生に向けて情報発信することを検討されたい。3館の職員がそれぞれに薦める本をネットを利用して発信し、投票を得るような試みをしてみてはどうか。また、学生が学習する部屋には、壁に情報提供することで学習の合間の息抜きに本を手にとることにつながるのではないか。
- 会長 良い意見をいただいた。事務局は参考にして取り組まれない。
- 事務局 図書館は幅広い年齢層の、不特定多数の市民が利用可能な施設である。安全に利用していただくため、防犯カメラ設置等の防犯対策についてご意見をいただきたい。
- 委員D 基本的には防犯カメラについてどうかと思うが、時代が時代であるので「設置しています」という表示は必要なのではないか。
- 委員A 防犯カメラに賛成、反対ではないが、防犯を意図しての予防線は必要なのではないか。
- 委員I 販売店などはダミーを設置しているところもある。実際は稼働していなくても予防のための設置も検討するべきかと思う。
- 事務局 どのような形が望ましいのか、いただいたご意見を含めて検討して参りたい。
- 会長 以上で意見交換を終了する。